

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

びわ湖学習／終航式

【所長 安江利光】

フローティングスクールでは、今年度から新たな研究に取り組み始め、3か年計画の初年度として実践を始めました。ほぼすべての乗船校が、フローティングスクールの学習を「総合的な学習の時間」に位置付けていることから、研究のテーマを「児童が探究的な学習のよさを実感できる学習の創造～読み解く力の視点を踏まえて～」としました。子どもたちが総合的な学習の時間に取り組むとき、その原動力は「日常生活や社会に目を向けた時に



チャンネルキャットフィッシュの漁を取材



マイクロプラスチック研究者を取材

湧き上がってくる疑問や関心」です。子どもたちは…人間と言い換えてもいいかもしれませんが…根本では「知ること」＝「学ぶこと」が大好きです。人間の本能とも言えます。探究的な学習とはこの「知りたい」という本能を呼び起こす活動です。

子どもたちが「探究的な学習のよさ」を味わいながら、学習を自身で進めていく意欲を持続させるためには「子どもたちから…」ということが非常に重要になってきます。新たな研究では①子ど

もたちから疑問や関心を湧き上がらせること②湧き上がった疑問や関心を受け止められる教材を準備しておくこと③探究学習に意味をもたせることに重点を置きました。この中の②「疑問や関心を受け止められる教材の準備」ですが、フローティングスクール職員が乗船業務や事務所が業務の合間を縫って、取材や撮影を続けています。今年度は、「チャンネルキャットフィッシュ」「マイクロプラスチックを含むびわ湖のゴミ」「びわ湖洪水とびわ湖



醒井養鱒場を取材



瀬田川洗堰を取材

の管理」「ビワマス」についてコンテンツをアップする予定です。探究的な学習には体験学習が欠かせませんが、学校で子どもたち個々の興味・関心すべてについて、それに沿った活動を仕組むことはできません。フローティングスクールのコンテンツがすべて動画を含んでいるのは、子どもたちに、動画を視聴することによって疑似体験をしてもらうためです。「自然事象」は子どもたちの興味関心を惹きつけてやみません。自然を学ぶフローティングスクールを十二分に活用していただき、滋賀の子どもたちをはぐくんでほしいと考えます。

2月27日、大津市立坂本小学校、仰木の里小学校、仰木小学校の第102回児童学習航海終了後、両校の子どもたちと先生方にご参加いただき、「湖の子」終航式を行いました。式には、学習船「うみのこ」船長、食堂料理長、県教育委員会事務局幼小中教育課長にもご臨席いただきました。最後になりましたが、全102航海を無事終えることができましたこと、ご協力いただいた関係機関や学校、ご家庭、運航に携わってくださった多くの皆様方に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。